

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の概要 (平成 年 月 日改訂)

○従前のモデル・コアカリキュラム

日本薬学会が「薬学教育モデル・コアカリキュラム」(H14.8)を作成し、文部科学省の協力者会議が「実務実習モデル・コアカリキュラム」(H15.12)を作成。

○改訂の体制

- ・文部科学省の「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」が改訂を決定。
- ・検討会の審議を踏まえ「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会」が改訂の原案・方針等を作成。
- ・具体的なモデル・コアカリキュラムの作成は日本薬学会に委託。

※上記三者が連携して改訂作業を実施。

○改訂の基本方針

- ・6年制学部・学科の学士課程教育に特化した内容とする。
- ・現在の「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」の二つを関連づけて一つのモデル・コアカリキュラムとして作成する。
- ・薬剤師として求められる資質を明確にし、その資質を身につけるために学ぶという形に変更する。

○改訂のポイント

- ・医療人である「薬剤師として求められる基本的な資質」を設定。
 - ①薬剤師としての心構え、②患者・生活者本来の視点、③コミュニケーション能力、④チーム医療への参画、⑤基礎的な科学力、⑥薬物療法における実践的能力、⑦地域の保健・医療における実践的能力、⑧研究能力、⑨自己研鑽、⑩教育能力
- ・「基本的な資質」を前提とした学習成果基盤型教育(outcome-based education)に力点を置き、「基本的な資質」を身につけるための一般目標(GIO)を設定し、GIOを達成するための到達目標(SBO)を明示。
 - 大項目:A基本事項、B薬学と社会、C薬学基礎、D衛生薬学、E医療薬学、F薬学臨床、G薬学研究
- ・医療人としての薬剤師を養成するため「A基本事項」、「B薬学と社会」を充実。学生は6年間継続して学修。
- ・「F薬学臨床」は今後の薬剤師業務の進歩を想定し大幅に見直し。他の大項目は「F薬学臨床」と体系的に関連づけて教育できるよう見直し。
- ・教育課程の時間数の7割はモデル・コアカリキュラムに示された内容を、3割は大学独自のカリキュラムを履修。

・平成27年度から各大学において改訂モデル・コアカリキュラムに基づく新たな教育を開始。

○改訂モデル・コアカリキュラムの内容

A 基本事項

(1) 薬剤師の使命 (2) 薬剤師に求められる倫理観 (3) 信頼関係の構築 (4) 多職種連携協働とチーム医療 (5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

B 薬学と社会

人と社会、地域に関わる薬剤師
法規範、社会保障制度、医療経済

C 薬学基礎

C1 物質の物理的性質

原子・分子の構造、熱力学、反応速度論等の物理系薬学

C2 化学物質の分析

物質の定性、定量

C3 化学物質の性質と反応

有機ならびに無機化合物の構造および性質等

C4 生体分子・医薬品の化学による理解

医薬品標的および医薬品の構造と性質、生体反応の化学

C5 自然が生み出す薬物

生薬に関する基本的事項

C6 生命現象の基礎

細胞の成り立ちや生命現象をになう分子

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節

人体の構造、機能、調節

C8 生体防御と微生物

免疫反応による生体防御機構および病原微生物

D 衛生薬学

D1 健康

疾病とその予防、栄養と健康

D2 環境

化学物質などの人への影響、適正な使用および地球生態系や生活環境と健康との関わり

E 医療薬学

E1 薬の作用と体の変化

疾病と薬物の作用および医薬品の作用する過程

E2 薬理・病態・薬物治療

疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な薬物治療を実施するための薬理、病態・薬物治療

E3 薬物治療に役立つ情報

医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析

E4 薬の生体内運命

薬物の体内動態およびその解析

E5 製剤化のサイエンス

薬物と製剤材料の物性、製剤設計およびDDS

F 薬学臨床

薬物療法の実践とチーム医療・地域保健医療への参画

G 薬学研究